



(別紙3)

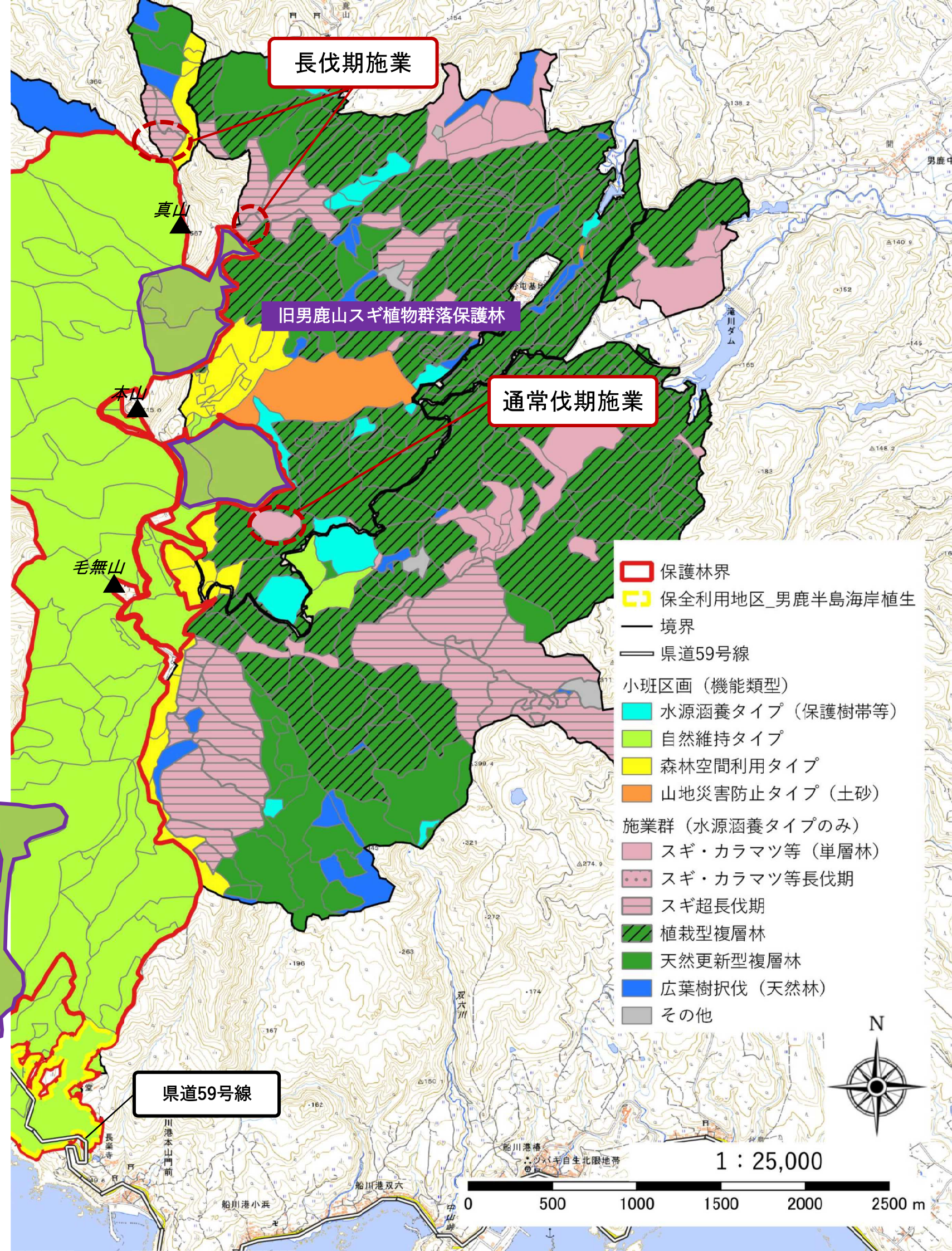
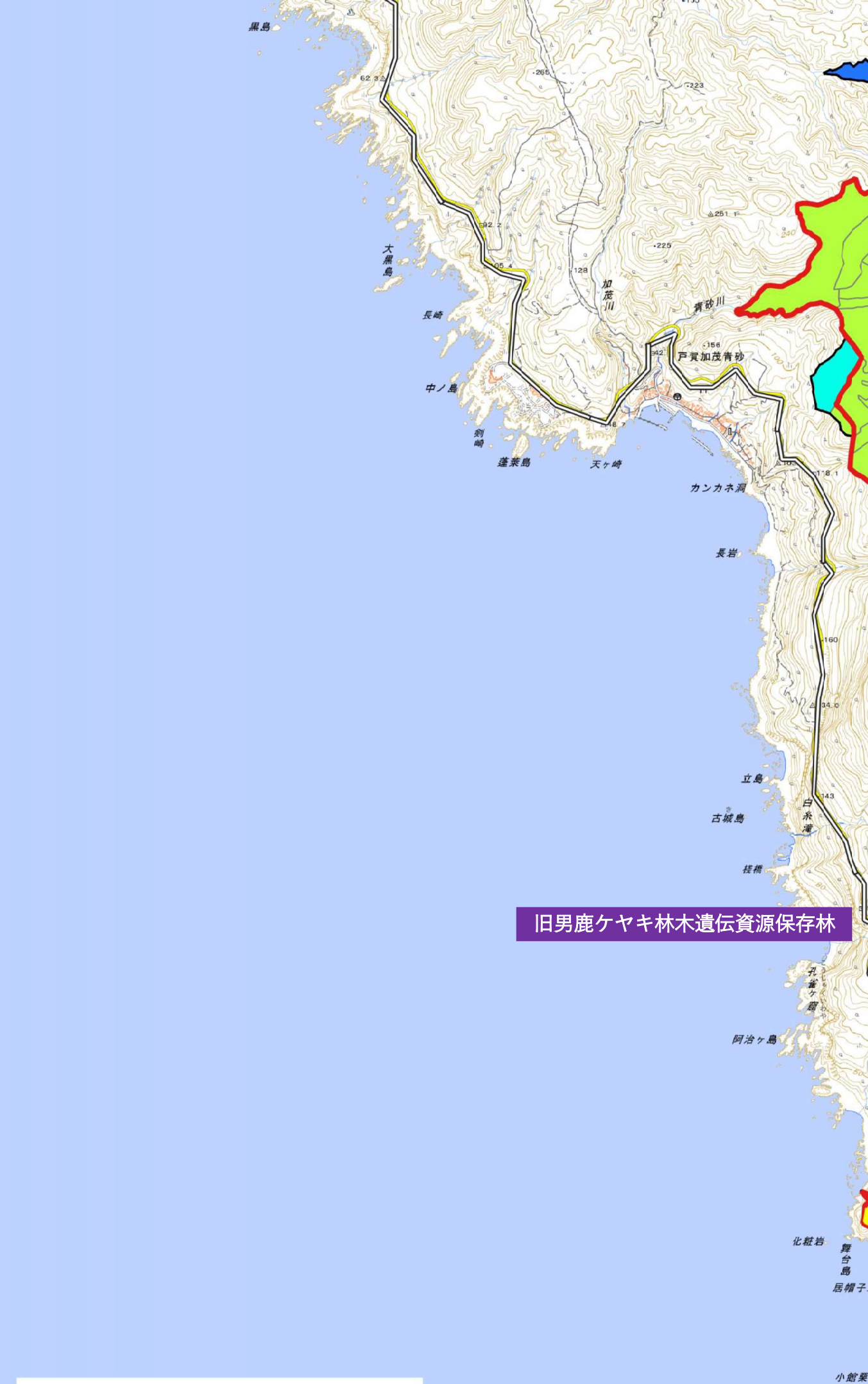
おがはんとうかいがんしょくせい
男鹿半島海岸植生
生物群集保護林

保護林名	男鹿半島海岸植生生物群集保護林	林種		面積(ha)		設定の経緯		位置図
管轄森林管理署名	米代西部森林管理署〔米代川森林計画区〕	天然生林		595.42		<p>秋田営林署(現米代西部署管轄)において、昭和44年4月1日に男鹿山スギ天然林学術参考保護林が、また、昭和48年4月1日に男鹿山学術参考保護林が設定され、平成5年4月1日に男鹿山スギ植物群落保護林、男鹿半島海岸植生植物群落保護林にそれぞれ再編された。</p> <p>一方、男鹿山学術参考保護林の一部を小班分割して、昭和63年に生物遺伝資源保存林第1種保存林(秋田ケヤキ9)が設定され、平成元年の通達改正により男鹿ケヤキ林木遺伝資源保存林に改称された。</p> <p>これらの保護林は平成29年に男鹿半島海岸植生生物群集保護林に統合・再編された。</p>		
所在地	秋田県男鹿市	人工林		0.00				
面積	655.08ha	その他(高山帯、湿地、その他雑地外)		59.66				
設定・変更年	昭和44年4月1日(設定)	計		655.08				

保護林概況写真		保護林の概要等		過去の保護林モニタリング調査概要	
	設定目的等	<p>男鹿半島の日本海側の西斜面に位置し、地形は急峻な岩石地が多く、海風を直接受ける地形環境にある。標高150m付近から山頂部までは、ブナ林が発達しているが、裏日本ブナ帯にみられるタムシバ、マルバマンサクを欠くことが本地域の特色である。また、海岸の風衝地には、ミズナラ、イタヤ、カシワ林など北地海岸風衝林がある。標高600m付近の西北部斜面の崩壊地には、ナナカマド、ツノハシバミ、ハクサンシャクナゲ等の低木林に囲まれてタカネナデシコ、ヒメアカバナ、トウゲブキなどの亜高山性の植物が見られる。</p> <p>また、一般的に潮害に弱いとされているスギが日本海からの潮風を浴び季節風に耐え自生しており、非常に珍しく貴重である。</p> <p>さらに、急斜面下部の渓谷沿いの特徴的なケヤキの林分が一部あり、古くは学術参考保護林として設定され、現在でもケヤキの遺伝資源を域内保存している。</p> <p>このような多様な植物群落を一体のものとして保存するために設定する。</p>	<p>直近のモニタリング調査年度及び結果概要(調査実施項目・調査手法含む)</p>	<p>【平成28年度】 ○男鹿半島海岸植生植物群落保護林(旧区分) [調査項目]森林調査 ・沿岸部の一部にナラ枯れが確認された。</p> <p>○男鹿山スギ植物群落保護林(旧区分) [調査項目]森林調査 ・保護対象のスギは健全に生育していた。</p> <p>○男鹿ケヤキ林木遺伝資源保存林(旧区分) [調査項目]森林調査 ・保存対象種のケヤキの現状は維持されている。 ・林床にエビネなどの希少種が確認された。</p>	
	保護・管理及び利用に関する事項	自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。			
	法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、風致保安林、鳥獣保護区、男鹿国定公園特別保護地区及び第1種～第3種特別地域			





項目	参照資料	所見
周辺の森林施業の現況	①機能類型分布図	<p>保護林の周辺について、機能類型の分布から着目すると、森林空間利用タイプ、山地災害防止タイプ及び水源涵養タイプの3類型が分布している。なお、その大半が森林空間利用タイプないしは水源涵養タイプである。一部、山地災害タイプ及び森林空間利用タイプの人工林が隣接するが、「管理経営の指針」に基づき「森林の現状に急激な変化を与えないよう」に皆伐は原則的に行わないため、施業による保護林区域への影響は小さいと史料される。</p> <p>その他、水源涵養タイプの林分が隣接するが、そのほとんどが皆伐を伴わない複層林施業であり、保護林への急激な環境の変化を与える等の影響は少ないと史料される。なお、一部、将来的に皆伐が想定される「スギ・カラマツ等施業群」及び「スギ超長伐期施業群」に分類される林分が隣接するため、複層林等を指向する施業群への変更を進める等、保護林区域への急激な変化を与えない施業をすることとする。</p>
法令制限の現況	②法令制限等分布図	<p>保護林区域の大半が男鹿国定公園第1種特別地域であり、一部が特別保護地区となっている。なお、それ以外の区域は第2種特別地域である。周辺については、西側(海側)の民有地は第1種特別地域となっており、東側の国有林は第2種特別地域が大半である。一部、第3種特別地域が隣接する。</p> <p>保護林区域のほぼ全域が風致保安林となっている。</p> <p>鳥獣保護区は保護林区域の大半が指定されている。</p>
利用に関する現況	②法令制限等分布図	<p>保護林界の東側を沿うように東北自然歩道が整備されており、男鹿三山(真山、本山及び毛無山)を踏破するルートが整備されている。本山(715.0m)及び毛無山(677.0m)には、航空自衛隊のレーダー施設がある(国有林外)。保護林区域の南側には県道59号線が横断している。</p>
植生に関する現況	③植生図	<p>海岸線から保護林区域まではエゾイタヤ・シナノキ群集が広がり、保護林区域はまで標高を上げると大半がオオバクロモジ・ミズナラ群集といった、落葉低木林を呈する。また、保護林区域の南側にはチシマザサ・ブナ群団といった高木林やススキ群団といった草原が見られる。また、保護林区域から海岸線までは、急峻な地形となっており、一部、海岸断崖地植生を呈する。</p> <p>保護林区域の東側の大半がスギ植林地であるが、植生図に見られる保護林区域内のスギ植林については、保護林内には天然スギが自生しており、スギ人工林とスギ天然林の錯誤の可能性がある。</p>
その他		

<p>地帯区分(案)</p>	<p>保護林の周辺については、急激な環境の変化を及ぼすような施業を実施する林分は少ない。一部、将来的に皆伐が想定される林分が隣接するが、施業群の変更等により対応が可能であり、保護林周辺に緩衝帯的な役割を持つ林分を配置することが可能である。</p> <p>また、保護林内の植生については、海岸植生や天然スギ、遺伝資源の対象としてのケヤキ等、重要な植生が点在していることから、これらの多様な植生を一体的に保存することが望まれる。なお、保護林の西側は民有地で、東側は人工林が広く分布し、保護林区域を広げることは難しい。</p> <p>なお、一部県道が保護林区域を横断しており、災害復旧工事等が継続的に想定されるため、県道周辺の小班を保全利用地区とする。</p>
----------------	---









※この地図は、地理院タイルを加工して作成したものである。

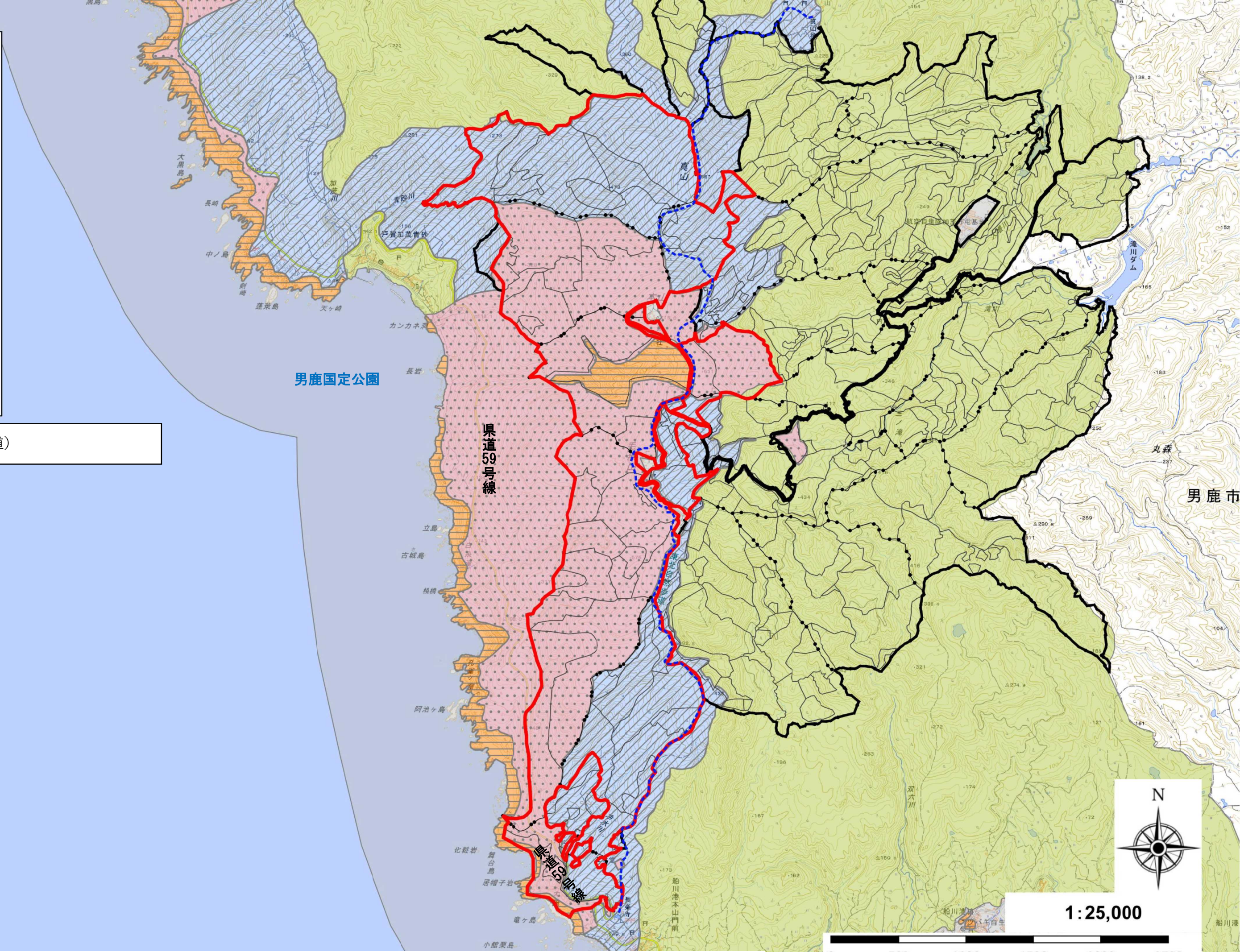
凡例

-  保護林界
-  境界
-  林班区画
-  小班区画

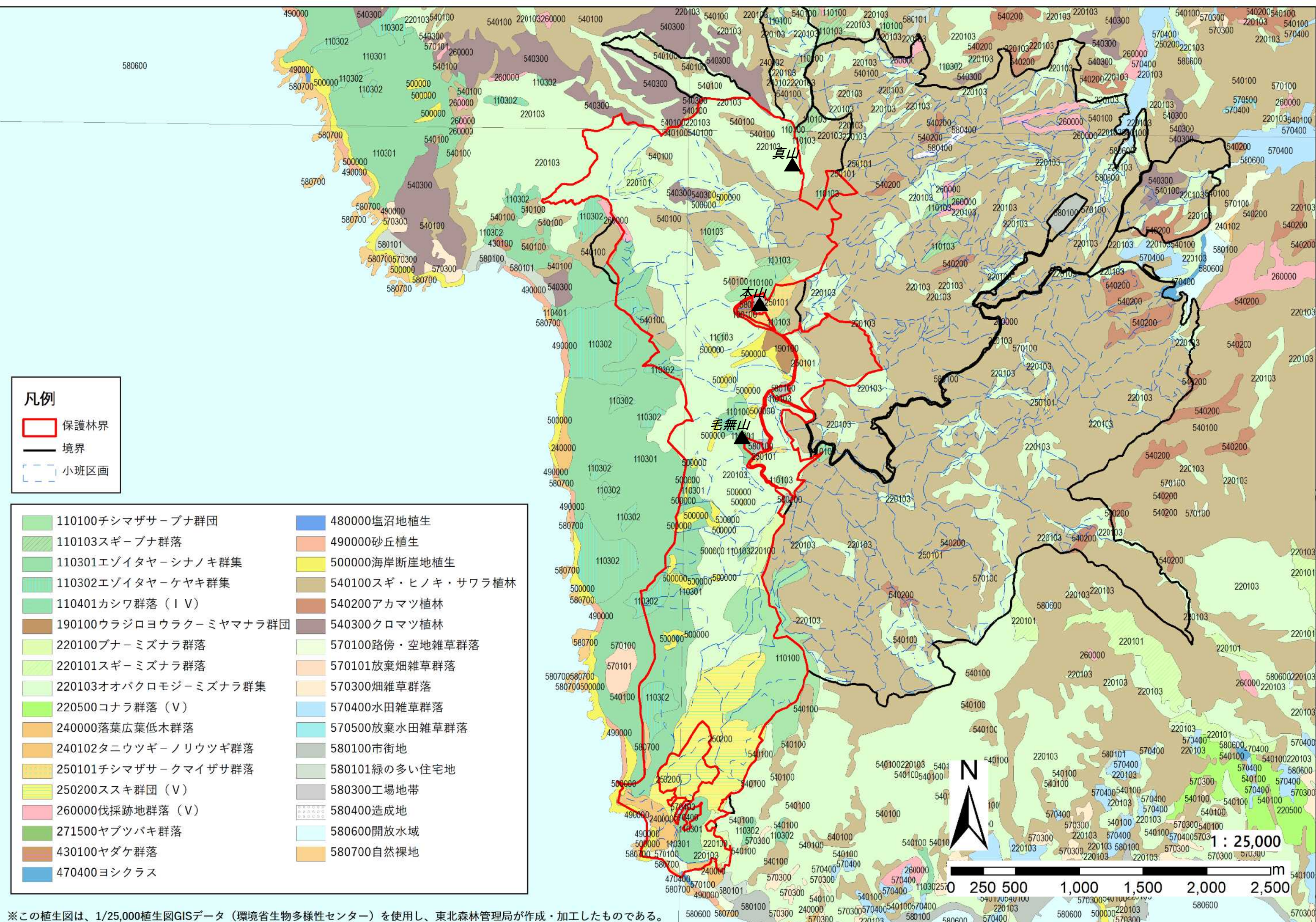
地種区分

-  特別保護地区
-  第1種特別地域
-  第2種特別地域
-  第3種特別地域
-  普通地域

 登山道（歩道）



※この地図は地理院タイル及び「国土数値情報（自然公園地域データ）」（国土交通省）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。

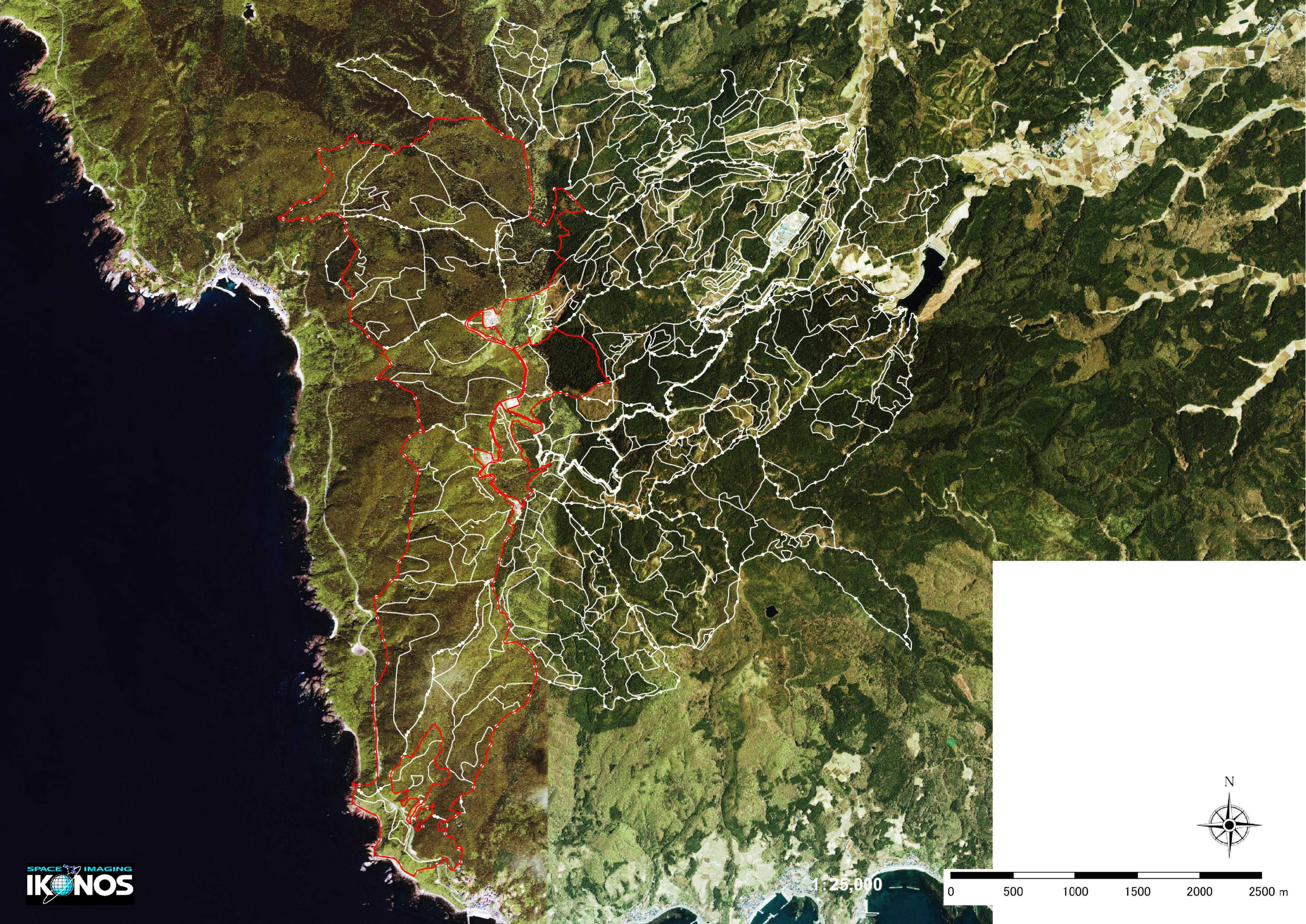


凡例

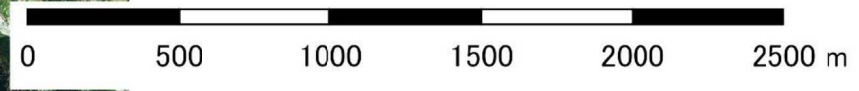
- 保護林界
- 境界
- 小班区画

 110100チシマザサ-ブナ群団	 480000塩沼地植生
 110103スギ-ブナ群落	 490000砂丘植生
 110301エゾイタヤ-シナノキ群集	 500000海岸断崖地植生
 110302エゾイタヤ-ケヤキ群集	 540100スギ・ヒノキ・サワラ植林
 110401カシワ群落 (I V)	 540200アカマツ植林
 190100ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団	 540300クロマツ植林
 220100ブナ-ミズナラ群落	 570100路傍・空地雑草群落
 220101スギ-ミズナラ群落	 570101放棄畑雑草群落
 220103オオバクロモジ-ミズナラ群集	 570300畑雑草群落
 220500コナラ群落 (V)	 570400水田雑草群落
 240000落葉広葉低木群落	 570500放棄水田雑草群落
 240102タニウツギ-ノリウツギ群落	 580100市街地
 250101チシマザサ-クマイザサ群落	 580101緑の多い住宅地
 250200ススキ群団 (V)	 580300工場地帯
 260000伐採跡地群落 (V)	 580400造成地
 271500ヤブツバキ群落	 580600開放水域
 430100ヤダケ群落	 580700自然裸地
 470400ヨシクラス	

※この植生図は、1/25,000植生図GISデータ(環境省生物多様性センター)を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。





1:25,000



(別紙4)

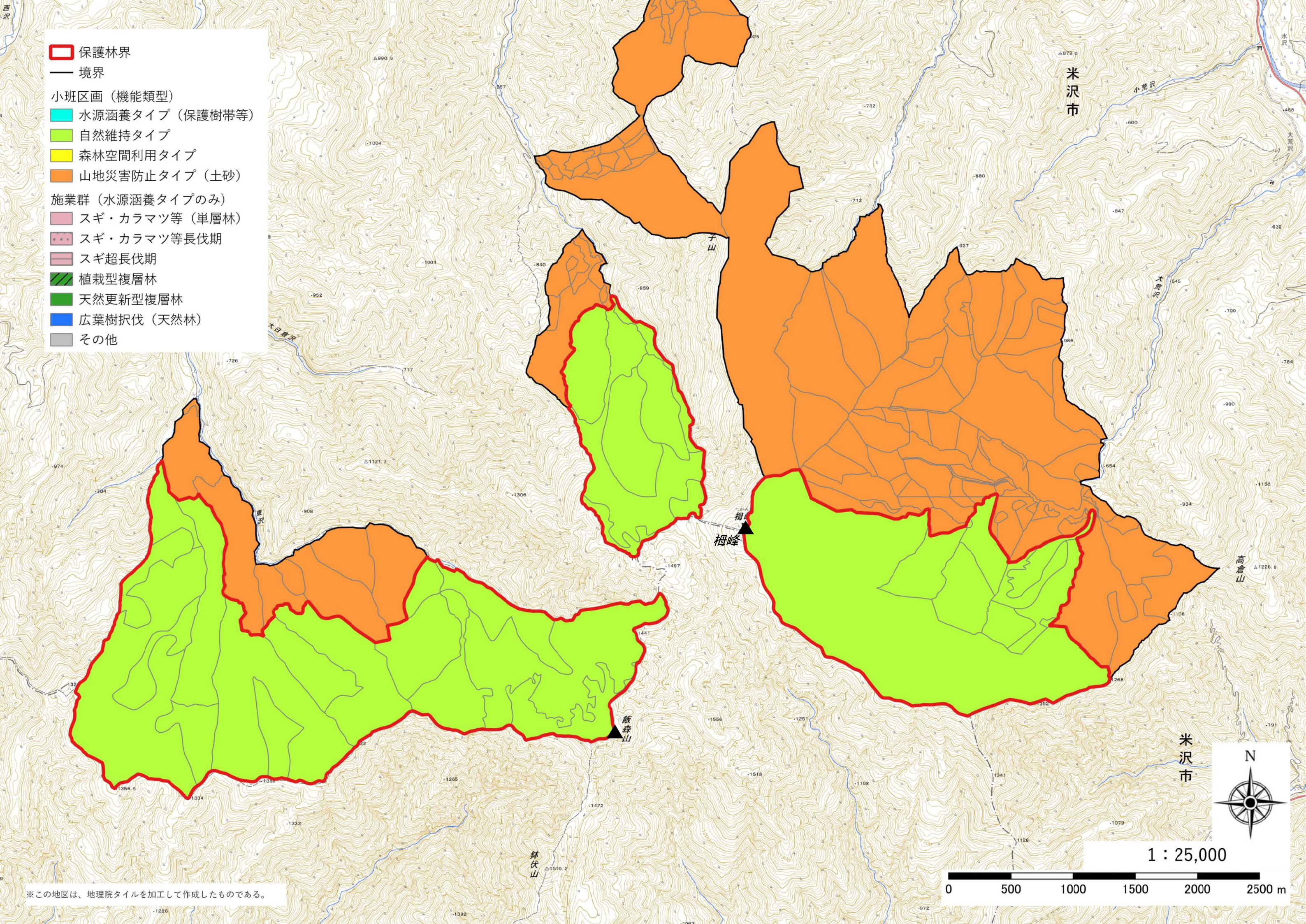
つがみね・いもりやま
朮峰・飯森山
生物群集保護林

保護林名	桐峰・飯森山生物群集保護林	林種		設定の経緯		位置図
管轄森林管理署名	置賜森林管理署 [置賜森林計画区]	天然生林	1,002.08			
所在地	山形県米沢市、西置賜郡飯豊町	人工林	0.00			
面積	1,043.30ha	その他(高山帯、湿地、その他雑地外)	41.22			
設定・変更年	平成16年4月1日(設定)	計	1,043.30			
保護林概況写真		保護林の概要等			過去の保護林モニタリング調査概要	
		設定目的等	<p>原生的なブナ天然林のほか、桐峰には、気候的極相として分布限界(西端)のアオモリドマツ林が分布している。</p> <p>ブナ林は、急峻地形に相応してリョウブ、タムシバなどを伴う退化型を示している。桐峰のアオモリドマツ林は、吾妻山とは異なり、ヒノキアスナロやコマツガの混成を欠く疎生型タイプである。</p> <p>このほかに、キタゴヨウクロベ、ヒメヤシャブシータニウツギ、チシマザサ群落等が展開する。このような多様な植物群落を一体のものとして保存するために設定する。</p>		直近のモニタリング調査年度及び結果概要(調査実施項目・調査手法含む)	【平成28年度】 [調査項目]森林調査 ・ブナ天然林やオオシラビソの生育は良好であった。
保護・管理及び利用に関する事項		自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。				
法令等に基づく指定概況		水源かん養保安林、土砂流出防備保安林				

項目	参照資料	所見
周辺の森林施業の現況	①機能類型分布図	<p>保護林の周辺について、機能類型の分布から着目すると、山地災害防止タイプの森林が広がっており、大半は天然林である。隣接する山地災害タイプの1小班は人工林であるが、「管理経営の指針」に基づき「森林の現状に急激な変化を与えないよう」に皆伐は原則的に行わないため、保護林区域への影響は小さいと史料される。</p> <p>なお、福島県側の国有林についても、自然維持タイプ及び山地災害防止タイプの天然林が広がっている。</p>
法令制限の現況	②法令制限等分布図	<p>保護林区域及び周辺の国有林は水源かん養保安林及び土砂流出防備保安林である。福島県側の国有林も水源かん養保安林であり、会津山地緑の回廊が設定されている。なお、桐峰(1541.3m)の福島県側斜面は県指定の自然環境保全地域特別地区となっている。</p>
利用に関する現況	②法令制限等分布図	<p>桐峰(1541.3m)には、山形県側に登山口があるが、利用は僅少である。飯森山(1595.4m)についても、福島県側に登山口があるが、アプローチが長く、利用は僅少である。</p>
植生に関する現況	③植生図	<p>基本的には保護林区域内において、チシマザサ-ブナ群団が広がっており、尾根筋にはクロベ-キタゴヨウ群落が見られ、稜線沿いにはミヤマナラ群落といった低木林が広がる。なお、地形が急峻なため、ヒメヤシャブシータニウツギ群落が点在する。桐峰の頂上付近には、オオシラビソ群集が見られる。</p> <p>保護林周辺は、ブナ-ミズナラ群落となっており、民有地についても天然林が広がっていると史料される。</p>
その他		

地帯区分(案)	<p>保護林の周辺については、急激な環境の変化を及ぼすような施業を実施する林分はほとんどなく、保護林周辺に緩衝帯的な役割を持つ林分が配置されている。</p> <p>また、保護林内の植生については、そのほとんどがまとまったブナ天然林及び上部にはミヤマナラ群落やオオシラビソ群落が存し、これらの多様な植生を一体的に保存することが望まれる。また、保護林区域外のほとんどがブナ-ミズナラ群落と保護林と異なる植生を呈するため、保護林区域の拡大はしない。</p> <p>以上から、保全利用地区は設定せず、保護林区域全域を保存地区とする。</p>
---------	--

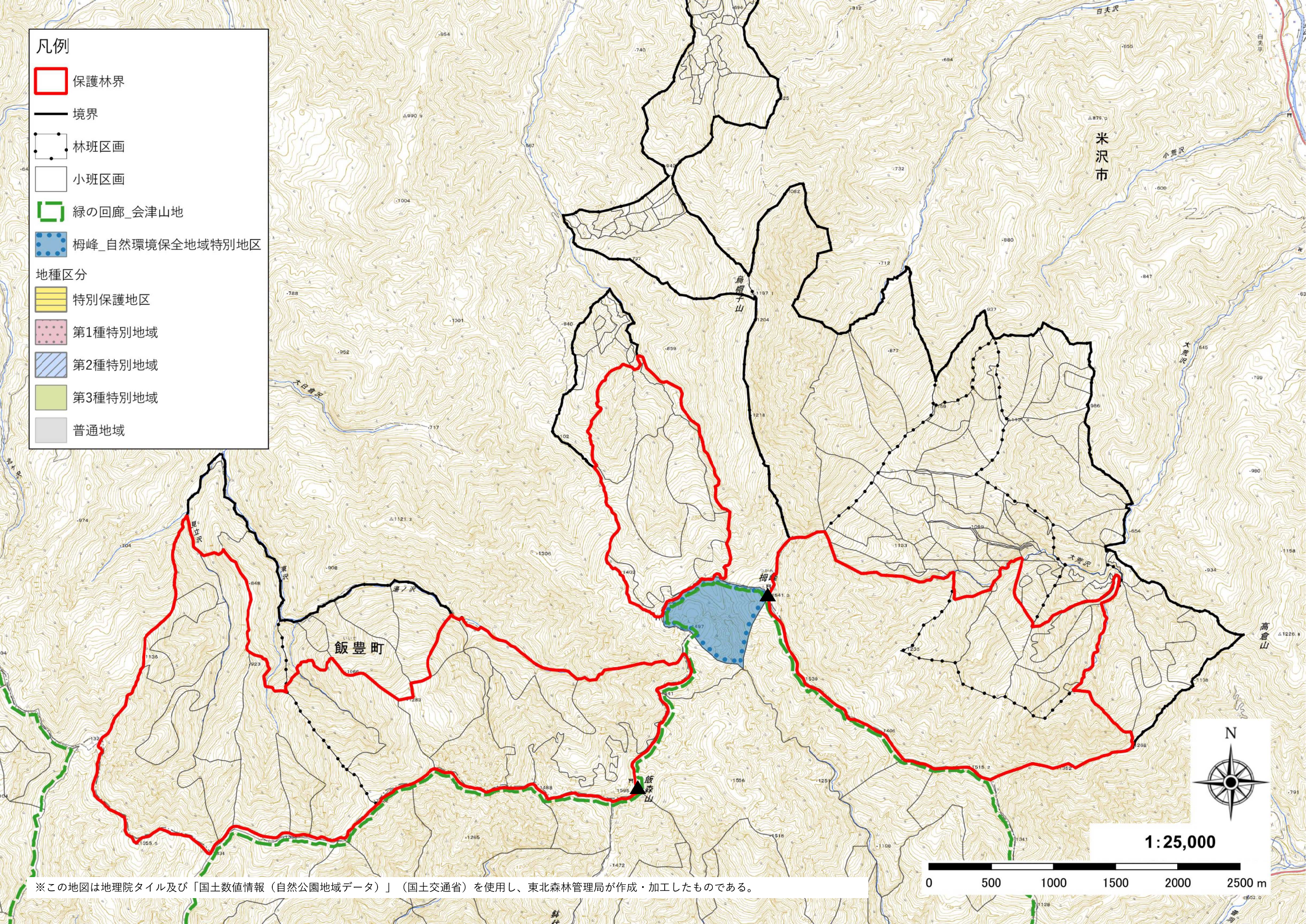
- 保護林界
- 境界
- 小班区画 (機能類型)
- 水源涵養タイプ (保護樹帯等)
- 自然維持タイプ
- 森林空間利用タイプ
- 山地災害防止タイプ (土砂)
- 施業群 (水源涵養タイプのみ)
- スギ・カラマツ等 (単層林)
- スギ・カラマツ等長伐期
- スギ超長伐期
- 植栽型複層林
- 天然更新型複層林
- 広葉樹択伐 (天然林)
- その他



※この地区は、地理院タイルを加工して作成したものである。

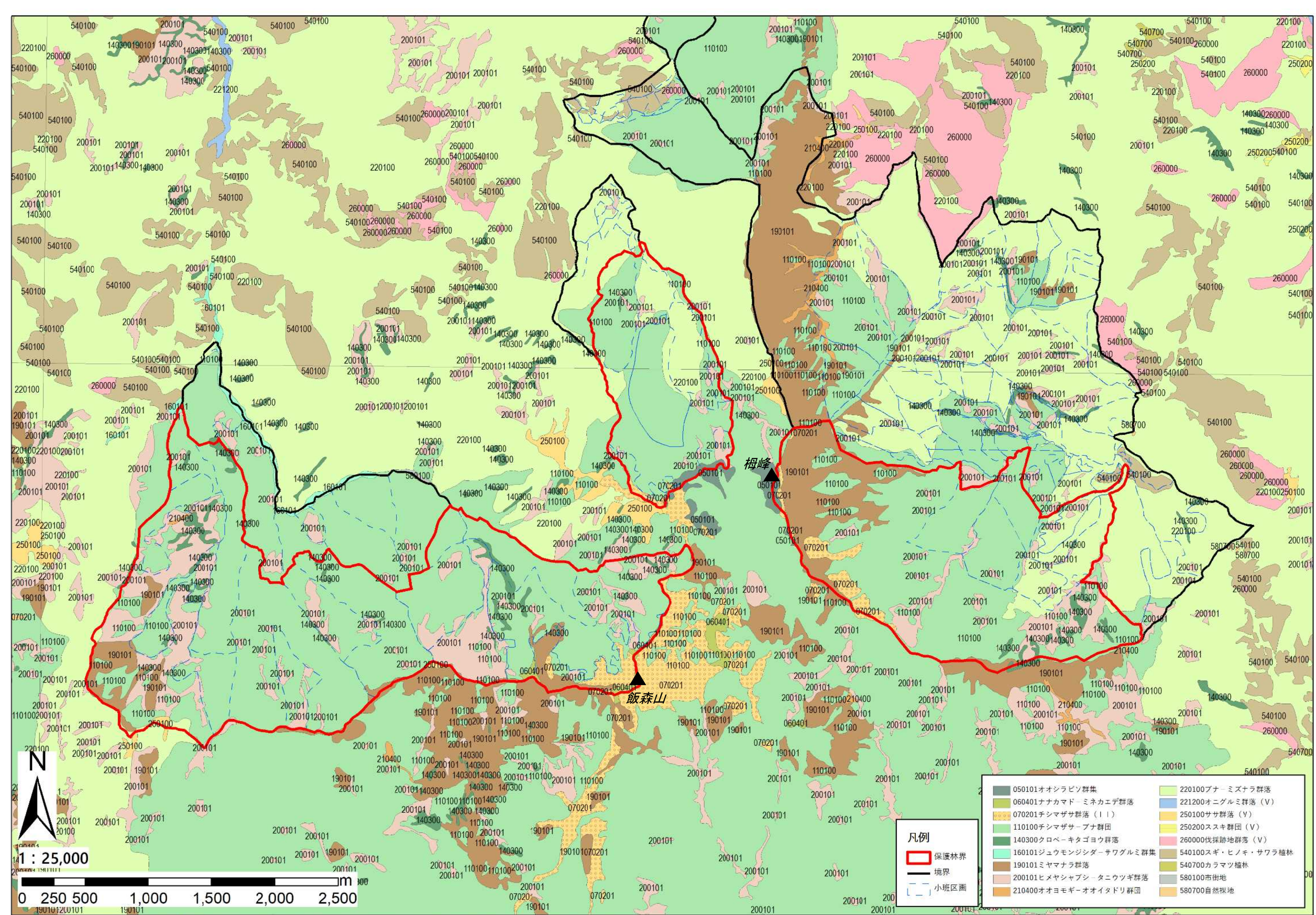
凡例

- 保護林界
 - 境界
 - 林班区画
 - 小班区画
 - 緑の回廊_会津山地
 - 柵峰_自然環境保全地域特別地区
- 地種区分
- 特別保護地区
 - 第1種特別地域
 - 第2種特別地域
 - 第3種特別地域
 - 普通地域



※この地図は地理院タイル及び「国土数値情報（自然公園地域データ）」（国土交通省）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。





※この植生図は、1/25,000植生図GISデータ（環境省生物多様性センター）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。

